

教員紹介

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。今回は今年度4月に着任された大学院人間文化創成科学研究科文化科学系助教の、田中琢三先生にお話を伺います。

田中先生は、学部では文教育学部言語文化学科、大学院では比較社会文化学専攻にご所属で、フランス文学・フランス文化・フランス語などを講じていらっしゃいます。

ご出身は？ ご専門は？

兵庫県加古川市です。フランス文学、ことにエミール・ゾラの作品を研究対象としています。

フランス文学を研究されるようになったきっかけは？

本を読むのはこどもの頃から好きで、井上靖などよく読んでいましたが、高校生くらいまで格別フランス文学が好きだとかいったことはありませんでした。高校のときの国語の先生が「東大に行くなら仏文だ。すごい人材を輩出している」と言われたのが強烈で、東大仏文への夢やイメージがふくらみ、とうとう東大へ、仏文へと針路をとってしまいました。大学に入ったときは、フランス語をただの一語も知らなかったんですよ。大学に入ってから、ゾラの『居酒屋』に感動したことが、ゾラを研究対象とするきっかけになりました。胸をしめつけられるような悲惨さを迫真的に描いており、徐々にクライマックスへと向かう構成力のみごとさに、圧倒される思いでした。

フランスに留学され、フランス語で学位を取得されたのですね

5年間をパリで過ごしました。フランス語は発音がむずかしいですし、教科書には載っていないような俗語が、実際の会話ではたくさん使われています。ユーモア・ジョークなど、文化に根差したものはニュアンスがよくわからなくて、むずかしいですね。そんなことに苦労したり、地下鉄でスリに財布を盗まれたり、緊張感をもって過ごしていました。でも食事はおいしいし、絵画も映画もとても安く見ることができ、芸術



Takuzo Tanaka
田中 琢三

文学の勢いを
盛り返したいですね

に触れるのには本当に恵まれていました。大家さんと家賃の交渉をする必要に迫られて、微妙なニュアンスを伝える技術を身につけたような気がします。フランス語で考え、フランス語で書いて、ソルボンヌ大学で学位をとりました。

どのようなことを研究されているのですか？

ゾラを研究対象としてはいますが、ゾラが大好きでのめりこむといったことではなく、むしろ客観的な好奇心が私を動かしているように思います。ゾラの思想・イデオロギー・人生哲学に関心がありますし、またゾラを通して、フランス社会はどのようになっているのか、どのような特色があるのか、社会と文学はどのように関わり合うのか、小説は政治とどのように切り結ぶのか、そのようなことに関心をもって研究を進めています。かつてに比べてフランス文学の人気が落ちてきていますが、それは政治との関わりが希薄になったからではないか、と個人的には思っています。文学の勢いを盛り返したいですね。

ゾラの決定論にも関心があります。その遺伝観はキリスト教の原罪の概念ともつながり、性悪的な色彩が強いのですが、そのゾラも晩年になると理想主義的に変化していき、社会主義と結びついたユートピアを志向するようになります。こうした変化も、研究の対象としていきたいです。19世紀の終わりから20世紀初めのフランスは、宗教・政治・文学の問題が渾然一体となっています。そこがおもしろいところでもありますね。

フランスではフランス人の視点に立って、フランス人的に思考しないと、研究として認められませんでした。つまりそれは、フランス人でも書けるようなことを書いたのだ、ということだとも言えます。今思うことは、これからは日本人でなければできないような、日本語や日本文学や日本文化をわかっていなければならないような、そういうフランス文学研究をやりたいと思っています。

オジドリ夫婦でいらっしゃるとか

妻と二人暮らしをしています。妻と一緒にフランス留学をして苦楽をともにした友人の、妹なんです。友人もすぐそばに住んでいて、当時のフランス仲間と日頃も親しい交流をしていま

す。最近健康のためにスポーツジムに入りました。妻と一緒にランニングをしたり、水泳をしたりしていますよ。

お茶の水女子大学の学生について、ご感想を

お茶の水女子大学に着任する前は、いくつかの大学で非常勤講師をしていました。着任して仏文コースの3・4年生の最初の授業で、ものすごい衝撃を受けました。「どうしてこれほどフランス語ができるんだろう……」今まで教えていた大学では決して出てこなかったような、核心を突いた鋭い質問が出ますし、発音もきれいですし、びっくりしました。そもそも私語など全くなく、黙って授業を聞いてくれること自体が驚きでした。真面目にノートをとり、とてもやる気があります。

コア科目のフランス語でも、そんなに教えないうちから発音もきれいにできるようになるし、教えてないことまで勉強してきます。まだ1年生なのに「フランス語でサルトルを読めるようになりたい」と言った学生がいて、そんなことは今までの大学ではあり得なかったことですから、本当に嬉しかったです。この大学に来られてよかったです、心から思いました。

お茶大生へのメッセージをお願いします

大学で学ぶべきことはしっかり学んで、社会で生きていくために必要な考える力や、選択して判断する力を身につけてほしいと思います。それは技術や資格などといったことではありません。大学で学ぶべきものは、思考力・自己決定力です。いろいろな授業を受けてみて、勉強や発表を通じて、サークルや友人関係などを通して、自分の知らなかった自分の能力に気付いてほしいと思います。それは余裕のある大学時代のうちに、ぜひやってほしいことです。

研究も仕事も生活もすべてひっくるめて、一番大事なのは誠実さだと、私は思っています。自分に対しても他人に対しても偽らないこと。それに尽きると思います。

文責・写真： 荻原 千鶴

(大学院人間文化創成科学研究科文化科学系 教授)